

平成31年度 学校経営計画

港区立麻布小学校
校長 黒田 泰正

はじめに

新しい元号が「令和」と発表された。今までになく万葉集から引用したこと、令という文字が初めて使用されたことなどもあり、とてもすばらしい元号と感じている。時代の変わり目は人々の生きる意欲を掻き立てていくものである。学校教育もそれに伴って、新しい時代の教育活動を期待されるであろうし、新しい分野の知識・技能の習得、実践の積み重ねを繰り返して、新時代に向けた教育の姿を表していかななくてはならない。

今年度は、令和2年度に完全実施される新学習指導要領の移行期の2年目に入る。港区としても既に新しい教科道徳は昨年度から実施されており、T1として行う外国語活動は少しずつ行おうとしているが、国際科として行ってきた港区は定着していて、逆にやりにくさも生じている。プログラミング教育については残り1年でしっかりとした計画をたてていかななくてはならない状況である。また、カリキュラム・マネジメントの確立については、校内研究（総合的な学習の時間・生活科）として取り組んできているが、まだまだ多くの課題を残してきた。

学校は、子供にとって、社会で求められる知識・技能・主体性・人間関係の基礎を習得する場と言える。そのために、学校の役割は、地域・社会の協力を得ながら、子供の確かな学力、道徳心、生きる力などを身に付けさせ、徳・知・体の調和のとれた、個性ある人間の育成に努めていくことが求められている。

麻布小学校は、今年度は144年目の年を迎え、歴史と伝統のある地域の学校として今日に至っている。その間の、時代の経過、社会の激変などと深く関わりながらも、一貫して「子供のための」学校を目指してきたといえる。

本校はここ3年間、平成28年度に港区教育研究奨励校研究発表会（算数科）、指導室訪問等があり、港区教育委員会の指示のもとに、地域や保護者や他校に向けて本校の教育活動を発信してきた。平成29.30年度の2年間は校内研究を総合的な学習の時間・生活科の教科・領域で行い、カリキュラム・マネジメントを通じた単元計画の工夫を研究してきた。教職員の授業改善の意識と教育公務員としての資質の向上の意識は高まったととらえている。今年度は校内研究を国語科に発展させて、港区教育研究奨励校を申し込み、うれしいことに港区から指定を受けた。今年度と来年度の2年間をかけて、研究発表会に向けて校内研究の充実を図り、教職員全員の授業力や、児童理解力を高めていきたい。

私が本校に着任して2年間がたち、本校が継続している行事や教育の取組内容を少しずつ改革改善をしてきた。また、本校の地域や伝統、特色ある教育活動も理解した。教職員には全面的信頼をもっている。教職員の意識や力を最大限に引き出し、気持ちよく職務遂行ができる環境を作ることが私の役目だと常に考えている。

今年度は教員の人事異動が少しあった。主幹養護教諭と主幹教諭の2人は本校から昨年度と今年度を通して昇任をさせた。担任教員と日本語教員を合わせて4名の新しい教員が転入した。大変うれしいことであり、新しいメンバーでの学校経営、学校づくりの出発となった。

人材育成としては、1年目、3年目の教員が在籍しているが、初任者研修、3年目研修を新人育成教員、主幹・主任教諭によるOJTの指導で着実に力をつけ、よりよい教師として育てていきたい。

昨年度一年間を振り返ると、企画会が機能して、校務がスムーズに進んできている。また、日本語学級が立ち上がり、こちらも 20 人近くの児童の教育によく機能している。毎年行ってきた学習発表会を、昨年度から学芸会、と音楽会・展覧会に分け、隔年で交互に行い、全児童の表現を保護者地域にも見てもらえるようにした。昨年度は学芸会を実施したが、教職員が一致協力して、よいものとなった満足感がある。今年度の音楽会・展覧会も忙しい中だが、協力し子供のためによりものにして実現させたい。

現在の麻布小学校の校舎は、昭和 60 年にできたもので、34 年がたつ。廊下が広く校庭の自然も多く、人工芝の校庭であり、恵まれた教育環境だと感じている。ただ、近年、入学児童数の増加が予想され(昨年度も今年度も 1 年生 60 人入学)、また、特別支援教室、日本語学級の開設にあたり、大きな 2 教室ぶんの広さの教室をそれぞれ 1 教室にする工事を行なった。これも新しい時代への変革だととらえ、前向きに考えていきたい。私たち教職員が真摯に教育・職務に打ち込む熱い心、誠実な姿を積み上げていかなければならない。また、新園舎ができた麻布幼稚園と共に歩む学校として、協力・助け合いの教育が自然と身に付く環境にあり、小学校教育を営むために申し分のない幸せな環境であるととらえている。

今年度は児童数が 10 学級 284 名のスタートとなった。麻布小学校は、時数を確保し、一人ひとりの児童を大切にし、理解していく。そして児童が社会に出たときに自立して生活できることを想定して、基礎学力・基礎体力・豊かな心・主体的、対話的、深まりのある学習・規範意識・勤勉、勤労の心、礼儀、節度を「生きる力」として育成し、組織的に効果のある教育活動を目指していく。

小学校教育は人格の基礎を作る大切な場である。児童のよき思い出と自己肯定感を作り、学ぶ意欲と生きる楽しさを教える場である。教師や友達とのよき出会いが子供の人生の方向を決めるといっても過言ではない。従って教師一人ひとりが「教育は人なり」「人としての行動、言動、責任を示す」の自覚のもとに、教育公務員として、児童、地域、社会への手本を示し、自分自身を磨き、鍛え、生涯学び続ける信念をもって歩まなくてはならないと考える。以下に、私の学校経営方針を示す。

1. 麻布小学校教育目標

東京都教育委員会教育目標、港区教育ビジョン・港区学校教育推進計画の目標を受けて、全教育活動を通して人権尊重と社会貢献の精神、一人一人の児童の豊かな個性と創造力を育む教育を実現するために次の教育目標の実現を図る。

また、児童が心身ともに健康で豊かな心をもち、生涯を通して自主的に学び、国際社会・地域社会に貢献する意欲をもつように育てていく。そして、規範意識と実践力を育成するために長年の教育目標・校訓を維持し、その具現化を推進する。

【教育目標】 ○ 元気な子 ○ やさしい子 ○ 考える子

【校訓】 ○自由 ○規律 ○品格

2. 教育目標の具現化に向けて

- (1) 人権尊重の理念を正しく理解させ、生命を尊重し、思いやりの心を育てる。
- (2) 社会貢献の精神の育成を目指して、児童が地域社会の中で必要な社会貢献ができるようになるための教育活動を推進する。
- (3) 心身ともに健康でたくましく、粘り強い児童の育成を目指す。
- (4) 基礎的・基本的な学力を確実に身に付ける指導法の工夫をしていく。
- (5) 平成 31 年度の「全体計画」・「年間指導計画」に作成し指導を行う。

- (6) 主幹養護教諭、主幹教諭、主任教諭を生かした学校運営組織のもと、**組織的に若い教員の育成**を推進する。
- (7) 毎週、**週案簿**を作成し、管理職決裁のもとに意図的・計画的な授業を実践する。
- (8) 内部・外部を問わず「**迅速な初期対応と誠意ある言動**」を実行していく。
- (9) 「**安心、安全**」を保障するために、事故・災害に備えての組織を明確にし、安全指導の徹底を図り、訓練を積み**危機管理の意識**を持ち続ける。

3. 目指す学校像

私の、目指す学校像は次のような学校である。

「**児童が学ぶ喜びと、誇りをもち、保護者・地域の人々と共に歩む学校**」

麻布小学校の入学式には 30 人を超える来賓の方がいらしてくださった。しかし、まだ地域とのかかわりは多くはないととらえている。

しかし、私は常に、この目指す学校像を念頭に置き、教職員と、保護者、地域の方々とともに歩む。運動会・音楽会・展覧会・学校公開日・全体保護者会・学校評議員会・セーフティ教室・道徳授業地区公開講座等の行事の開催や、六本木地区青年対策委員会・麻布小地区防災協議会・地区四者協議会・町会祭礼等の参加を通して、保護者や地域へ、**教育活動を広く説明・公開し、外部評価を求め、地域・家庭の声を聞いていく**。そして、“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「**社会に開かれた教育課程**」の実現を目指して「**開かれた学校**」作りを一層推進していく。

また、以下のような学校作りも目指していく。

(1) 「**明るく活気のある学校**」

- ◎児童が目標をもって生活し、「**学校に来るのが楽しみだ**」という学校にしたい。
そのために、一人ひとりが尊重される教育を進めていく。児童同士、児童と教師、教師と保護者が相手の立場を理解し、助け合い、励ましあう気運をつくりたいと考える。いろいろな人のおかげで人は支えあっていることを感じさせ、共に生きる姿勢や心を育む。また、あいさつがよくでき、規範意識・礼儀・節度のある児童を育成していく。

(2) 「**柔軟で創造性のある学校**」

- ◎ 計画、実践、評価、振り返り (**Plan・Do・See・Check**) に基づいて実践をしていく。
基礎・基本(不易)と時代の要請へ対応できる**柔軟性(流行)**の部分を学校や教師が持ち合わせるとともに受動的な学力と能動的な学力を育むようにしていく。

(3) 「**地域から信頼される学校**」

- ◎教職員は教育公務員、地方公務員としての自覚をもち、**児童の為**になっているか、世の中の常識にあっているか、法規に照らしてまちがっていないかを判断の基準にして行動する。
- ◎信用失墜行為の防止、勤務時間や**サービス基準**の自覚、体罰の厳禁、個人情報の持ち出しや車通勤の禁止、**守秘義務の遵守等、サービス事項の徹底**を図る。
- ◎働き方改革の実現に努力することも、地域への信頼と考える。

◎全職員が危機管理意識をもつ。児童のけがや問題行動、学級での問題からくる保護者とのトラブルを防ぐためにも、**初期対応を早くし、管理職や、主幹養護教諭、主幹教諭・主任教諭への報告・連絡・相談を密にしていく。**

(4)「礼儀・節度を教え、しつけのできる学校」

◎目上の人、友達同士、教えていただいた人、初対面の人、お客様への**最低の礼儀、あいさつ、ことば遣い・もてなし、心遣い等**を、行事・授業・日常のあらゆる場面を通して教えていく。

◎**規範意識・公共のものの使い方、正しいマナー・話を聞く態度等**、社会の常識をとらえ、教職員が共通の意識や行動をとり、家庭にも啓発して育てていく学校を目指す。

4 育てたい児童像

- (1) 思いやりのある児童（言葉遣いがよい・共に遊ぶ・助け合う・自己肯定感をもつ）
- (2) 基本的な生活習慣を身に付けた児童（正しく話す・聞くことができる・後片付け・整理整頓・時間厳守ができる）
- (3) 学習の基礎・基本の定着した児童（読み・書き・計算・思考・判断ができる）
- (4) 意欲のある児童（勉強・練習・仕事等をしっかりやり、挑戦する心をもつ）
- (5) 人も町も学校も好きな児童（規範意識・礼儀・挨拶・感謝の心・公共心をもつ）

5. 期待する学級のありかた

- (1) 先生、友達の話姿勢よく、静かに聞く学級
- (2) 基本的な学習・生活のルールがある学級
- (3) 宿題・提出物が全員きちんと出せる学級
- (4) 補教の先生、学年の先生へお礼のあいさつが自然にできる学級
- (5) 机の上に物が出しっぱなしにならない学級
- (6) 自らの失敗を言い合え、謝れる雰囲気のある学級
- (7) 黒板も掲示物も戸棚もきれいな学級
- (8) 給食の残がない学級
- (9) 生活に関するアンケートを毎月とり、いじめ防止に役立てる取り組みをする学級
- (10) 移動するときは、電気を必ず消していく学級

6. 校長としての短・中・長期的目標

平成31年度

- ① 研究奨励校1年目として、研究教科を国語科とし、研究分科会、全対会の組織を生かした研究をしていく。
- ② オリンピック・パラリンピック教育の質を高め推進する。
- ③ 音楽会・展覧会の初年度を何としても成功させる。
- ④ 144周年目として、145周年の準備、アイデアを出し合い、開校記念日の持ち方を工夫する。
- ⑤ 六本木アカデミー活動で、研究授業や行事・生活指導等で、統一した取り組みの充実を図るとともに、地域支援本部コーディネータの導入をする。

- ⑥ 人権週間の取組を充実させて行う。
- ⑦ プログラミング教育の実践を進める。

令和2年度

- ① 研究奨励校の発表を行う。
- ② 地域支援本部を立ち上げる。地域コーディネータの活用
- ③ 指導室訪問を受け、教育委員会の指導を受ける。
- ④ 145周年記念の行事を地域とともに行う。
- ⑤ 145周年記念運動会・学芸会を実施する
- ⑥ 第二回目の学芸会を実施して成功させる。
- ⑦ 保幼小の連携、教育の形を作る。
- ⑧ オリンピック・パラリンピックの年として、その感激や応援を最大限児童に還元し共有する。

令和3年度

- ① 都の一般訪問を受ける
- ② 国語の研究を、引き続き3年目として、主題を変えて新たに発展させる。
- ③ 音楽会・展覧会の2回目として更に充実させる。
- ④ 146周年記念の集会を行う。

7. 本校の特色ある教育活動と、目標の具現化

(1)学力の向上

① 国語科での校内研究の充実(港区研究奨励校として)

研究主題を

「主体的に学び、豊かに表現する児童の育成」

～言語活動の充実を図るカリキュラム・マネジメントの工夫と授業づくり～

とし、授業研究に努め、日常の授業の質を高める。国語科を通して授業の基礎を身に付ける。

②学校公開・授業の公開

学期ごとの学校公開、及び毎月の第一、第三土曜授業日を設定し、授業を地域、保護者に公開していく。運動会・音楽会・展覧会・防災訓練・セーフティ教室・道徳授業地区公開講座などを土曜日の学校公開に開催していく。

③「読書タイム」読書活動の充実

週2回、朝の「読書タイム」を設定し、学校司書の指導・協力を得て、読書の時間と読書量を確保し、本好きの児童を増やしていく。RASやボランティアによる読み聞かせもより多く設定していく。

④「出張スピーチ」活動の充実

2週に一度、朝にスピーチを他の学級に出向いて行う。友達の前で自分の話をする経験をもとに、話す力や意欲を育てていく。

⑤ICTを活用した授業づくり

パソコン・タブレット・大型テレビ・プロジェクター・実物投影機・大型スクリーン、SNS機能を活用して、児童が視覚的にイメージ化でき

る指導を工夫する。

⑥ 国際科の授業の推進

1年生から、国際科の授業を週2時間行い、自国の文化とともに、外国の言葉・文化・生活習慣に慣れ親しむ体験を取り入れ、児童の国際感覚を育てる。NTとともに、より担任がT1として指導にあたる。

(2) 生活指導・体験学習・朝集会の充実

① 特別支援教育を推進するための体制の充実

生活指導全体会・児童理解委員会で、特別支援教室の様子や配慮を要する児童の共通理解、共通指導を話し合っていく。特別支援教室の特別支援巡回教員・スクールカウンセラー・学習支援員と連携して、保護者への進言・支援を適切にしていく。個別指導計画を作成して児童指導を深めていく。

② 安全指導、防犯指導

- ・セーフティ教室を実施する(10月)。SNSの正しい使い方、不審者進入を想定した対応を学ばせていく。
- ・通学路点検を実施したり、児童の安全の確保をしたりしていく。
- ・地域安全マップを作成し、全校に啓発したり、指導をしたりしていく。
- ・避難訓練、集団下校、引渡し訓練、交通安全教室等を実施していく。
- ・防災訓練(10月)は区の防災課や町会・麻布小地区防災協議会と連携して行う。

③ 奉仕活動・地域清掃

「ちょこボラ」と名づけた年4回の地域清掃を通して、自分たちの町をきれいにしていく環境への心を育む。保護者・支所にもできれば参加してもらい協働していきたい。また、毎年4年生参加の地下歩道橋の絵画の展示式や、3年生参加の六本木交差点の花を植える行事に参加していく。

④ 「麻布のやくそく、きまり」の指導

- ・生活のきまり
- ・学習のきまり
- ・校外でのきまり を全校で徹底指導していく。

⑤ 朝の活動の充実

- ・全校朝会
- ・運動朝会
- ・音楽朝会
- ・児童集会
- ・読書タイム
- ・出張スピーチ
- ・ふれあいタイム
- ・その他(歯科、ユニセフ、オーストラリア等の集会)

⑥ いじめ・不登校への対応

児童理解委員会、生活指導全大会、学校生活アンケート等を通して早期発見・対応に努めるとともに、適宜「いじめ防止対策委員会を開き、組織的に対応していく。

(3) かかわりの活動の工夫

①六本木アカデミーによる六本木中学校との連携活動

※六本木アカデミー主題「自分の考えをもち、表現し、伝え合う子供の育成」
六本木中学校との連携では、アカデミーによる研究授業公開をお互いにしあう。教員同士の交流、研究授業の参観や講評、生徒会の説明、部活体験、学校見学等を実施する。子供サミットにも参加し、内容を充実させる。

②六本木アカデミーによる東町小学校・南山小学校との交流

近隣の小学校と連合行事等、共に歩むようにして、同じ地域の小学校として、尊重しあう心の育成を図る

③六本木アカデミーによる麻布幼稚園、南山幼稚園との交流

主に、麻布幼稚園との交流だが、5年生を中心に幼稚園の運動会や展覧会の事前の交流や交流給食等を行う

④異学年縦割り班交流

異学年で活動する場を設定していく。全校遠足(5月・わくわくハイキング)では、縦割り班で活動し、高学年が低中学年の世話をする。なわとび、遊び、給食等学年を超えて定期的に交流し、お互いを尊重しあう心を育む。

⑤ 地域・家庭・企業・大使館との交流活動を生みだてしていく

インターナショナルスクール、大使館、地方や島の学校、地域の企業・各諸機関、施設、などとの交流活動を生み出していく。

⑥ オリンピック・パラリンピック教育の推進

オリパラ委員会を立ち上げ、「世界ともだちプロジェクト」を推進するとともに、平和に関する教育、グローバル化に対応した国際感覚の育成など様々な価値観を尊重することの重要性を理解させる

おわりに

麻布小学校は新しい時代に入る。1年・2年・4年・5年が2学級になり、3年・6年も2学級分の人数がいる。数年前までの全校単学級のイメージはなくなったといっ
てよい。そのころの取組(入学式・卒業式・たてわり班・委員会活動・全校遠足等)の形
では無理が生じていて、昨年度の新年度計画で改善したところも多い。日本語学級は2年
目に入り、通級志望も多くなってきており、期待に応えていきたい。

副校長は校長任用前研修の年にあたり、大きな目標を持ちながら、本校も2年目にな
り、広い視野で学校経営を遂行しており、充実期に入っており、信頼感が高い。主幹養
護教諭の教務主任、主幹教諭の生活指導主任はどちらも任用されたことは初めてだが、
学校全体を視野に入れる心が育っており、よい仕事をしてくれると信じている。新6年
の担任は5年からのもちあがりだが、保護者からも継続をもとめられるほどの信頼を得
ている。期待している。どの学年も課題があり大変であるが、それぞれの担任が人とし
ての常識、礼儀、責任を持ち得ており、何とか明るく楽しく元気な学級集団をつくって
ほしい。

また、昨年においてしっかりと指導をしてくれた日本語学級の期限付き教員が異動に
なったが、今年は経験のある教員が入ってくれて心強い。音楽、図工の専科教員は、今
年度初めて、2学期に音楽会、3学期に展覧会を実施する。学芸的行事委員会の2トッ
プとして担任を動かし、子供によい指導をして、全力で子供が輝き達成感のもてるリー
ダーになってほしい。

活発で明るい中堅・若手教員が協力しあってよりよい時代にしていきたい。新しく来た教員、新人育成教員として再任用で残った教員にも期待している。ぜひこれからの麻布小学校をつくってほしい。新しく来た教職員には、ぜひ、経験してきたことがあれば提案したり、意見したりしてほしい。

麻布小学校は、課題もたくさんあるが、教職員・主事・講師の人柄は皆すばらしい。誠実で相手を思いやれる。手を貸してあげられる。一生懸命さもあり、楽しさもある。私が目指す学校を実現してくれる教員・主事集団である。

次のことを心掛けて教育活動をすすめてほしい。

- ・研究では、時間をかけて何回も話し合い、実践し合い、質を高めてほしい。
- ・会議でも、自分の意見はどんどん言い、決まったらきちんと守ってほしい。
- ・厳しい日程でも、期日を守り責任をもってほしい。
- ・先輩の先生方が若手の先生に時間をかけて、よく教えてほしい。
- ・教職員は礼儀や服装の乱れにも気を付けてほしい。
- ・学年会に時間をかけ、日々一所懸命やってほしい。
- ・子供たちまかせにせず必ず指導を入れてほしい。行事の代表挨拶の指導はすばらしい。
- ・子供には、礼儀やことばづかいの指導をしてほしい。
- ・外部の人に、失礼のないように、誠実に笑顔で接してほしい。
- ・これからも温かい雰囲気でいごちのよい職員室であってほしい。

校長として、これらを維持できるように願い、指導をしていく。ときには、厳しい指導も入れていく。そして、校長として、教職員を大切に、子育て等、教職員のご家庭の事情も話せる信頼を作り、理解してあげる。気持ちよく働ける環境を作り、更に教職員の力を伸ばすように育てていきたい。